

広島県の地震

2025（令和7）年11月

目次

広島県及びその周辺の地震活動…………… 1

震央分布図・断面図と地震概況

広島県における震度1以上の地震…………… 2

震度一覧表と震度分布図

地震メモ 第252回…………… 4

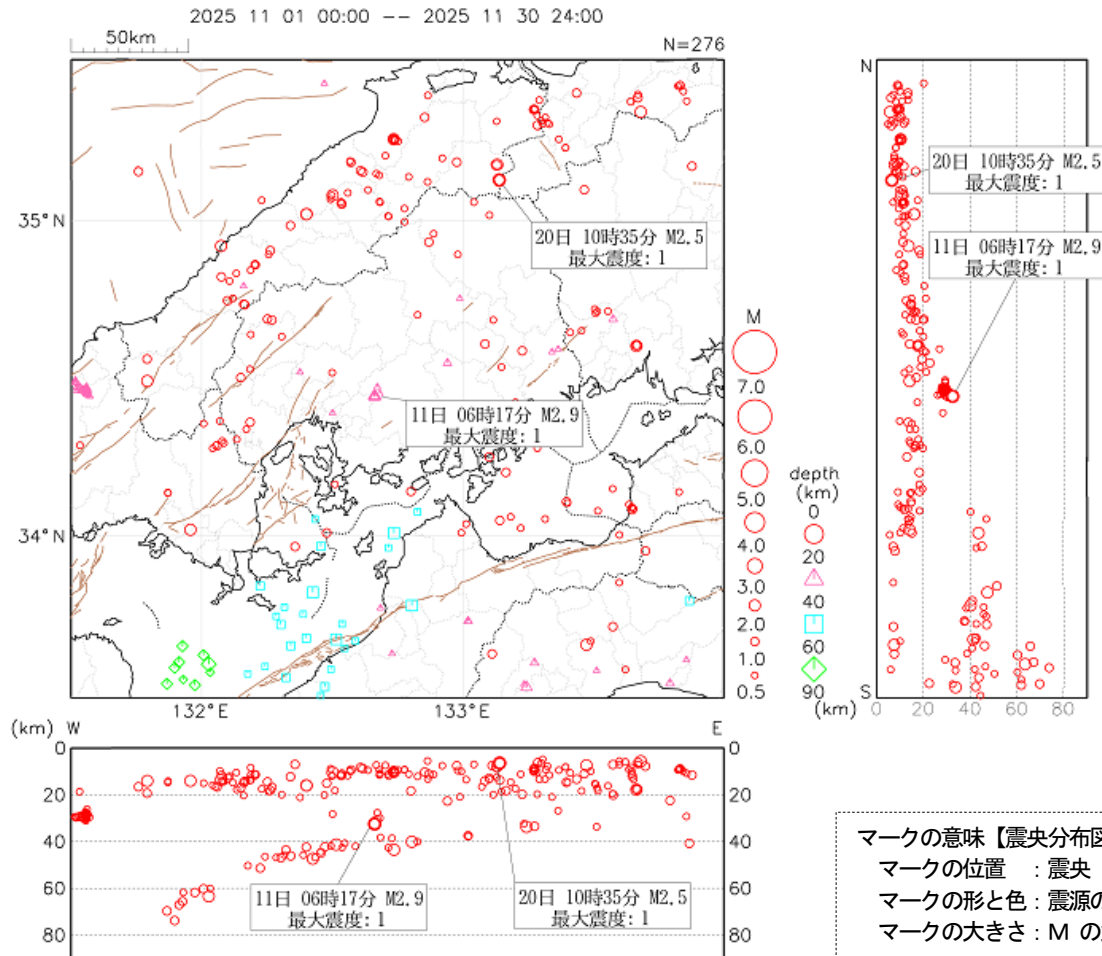
南海トラフ地震臨時情報について

広島地方気象台

広島県及びその周辺の地震活動

【震央分布図・断面図】

2025 年 11 月 1 日～11 月 30 日



左上：震央分布図 右上：南北断面図 左下：東西断面図

- ※ 震央分布図とは、震源直上の地表面での位置を表示した図です（震源とは地球内部で岩石破壊が始まった地点で、一般的には深さがあります）。
- ※ 図中の茶線は地震調査研究推進本部 による活断層を表しています。
- ※ 図の右上の” N” は図の範囲内における地震の回数です。

マークの意味【震央分布図・断面図】

マークの位置：震央

マークの形と色：震源の深さ

マークの大きさ：M の大きさ

※ Mは地震の規模を示すマグニチュードの略です。

凡例 (depth)【震央分布図】

○ は深さ 0～20 km未満

△ は深さ 20～40 km未満

□ は深さ 40～60 km未満

◇ は深さ 60～90 km未満

【地震概況】

この期間、広島県内で震度 1 以上を観測した地震は 3 回でした（先月は 2 回）。

11 日 06 時 17 分 広島県南西部の地震（深さ 32km、M2.9）により、広島県安芸高田市・北広島町・東広島市で震度 1 を観測しました。

20 日 10 時 35 分 島根県東部の地震（深さ 6km、M2.5）により、島根県奥出雲町、広島県庄原市で震度 1 を観測しました。

25 日 18 時 01 分 熊本県阿蘇地方の地震（深さ 9km、M5.8、上図の範囲外）により、熊本県産山村で震度 5 強を観測したほか、近畿・中国・四国・九州地方にかけて震度 5 弱～ 1 を観測しました。広島県では南部の多くの地点で震度 1 を観測しました。

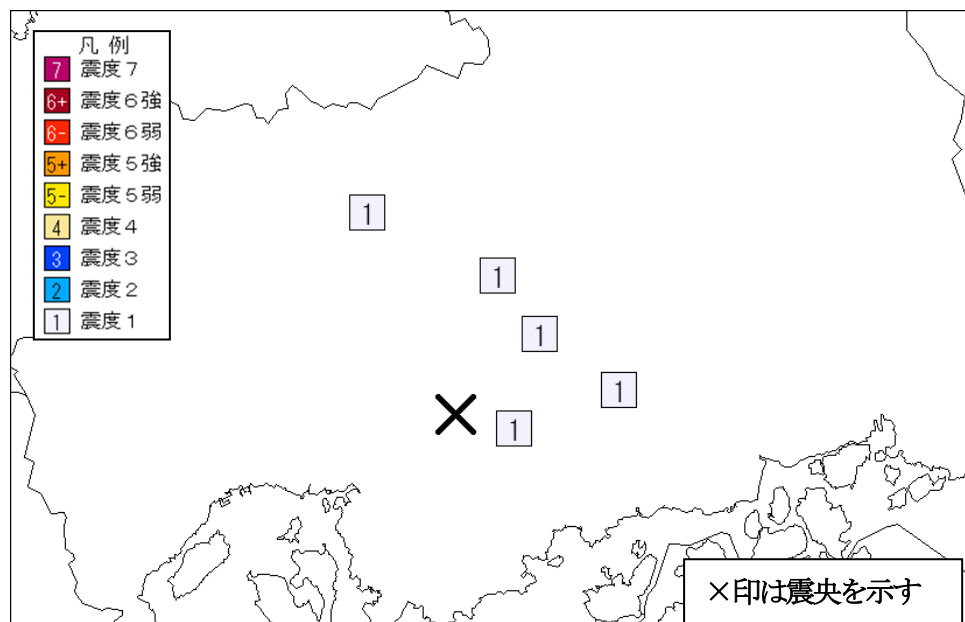
広島県における震度 1 以上の地震

【震度一覧表】

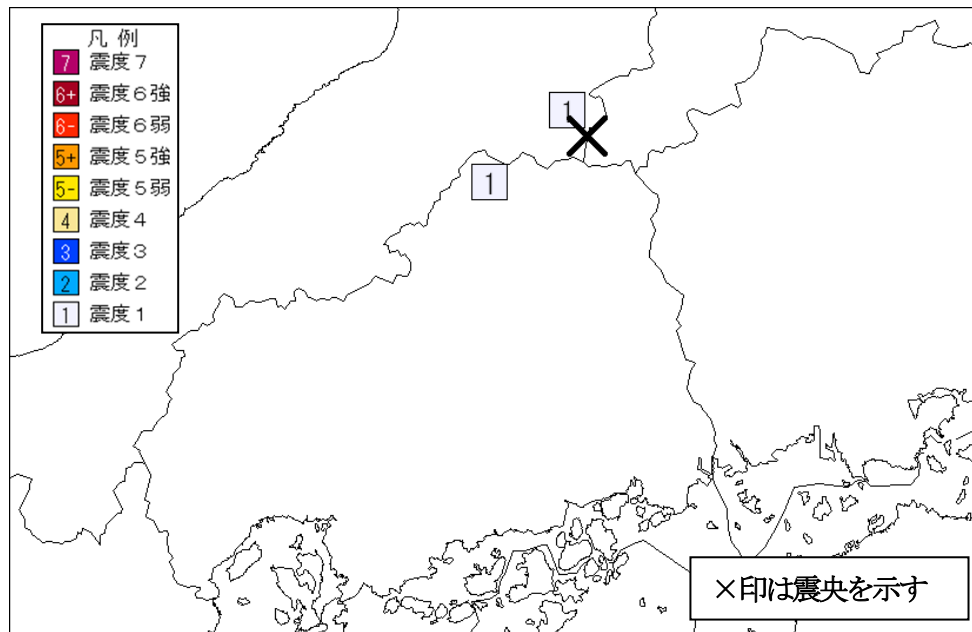
発震時刻（年月日時分）	震央地名	緯度	経度	深さ	M
広島県内の各地の震度					
2025年11月11日06時17分	広島県南西部	34° 26.6' N	132° 39.7' E	32km	M2.9
———— 地点震度 ————					
広島県 震度 1：安芸高田市向原町長田＊, 北広島町有田, 東広島市西条栄町＊, 東広島市福富町＊ 東広島市河内町＊					
2025年11月20日10時35分	島根県東部	35° 07.6' N	133° 08.4' E	6km	M2.5
———— 地点震度 ————					
広島県 震度 1：庄原市高野町＊					
2025年11月25日18時01分	熊本県阿蘇地方	32° 59.8' N	131° 06.4' E	9km	M5.8
———— 地点震度 ————					
広島県 震度 1：三原市本郷南＊, 尾道市向島町＊, 尾道市瀬戸田町＊, 尾道市久保＊, 福山市内海町＊ 広島南区宇品海岸＊, 広島西区己斐＊, 呉市宝町, 呉市二河町＊, 呉市広＊ 呉市川尻町＊, 呉市音戸町＊, 呉市安浦町＊, 呉市豊町＊, 大竹市小方＊ 東広島市黒瀬町, 廿日市市大野＊, 府中町大通り＊, 海田町役場＊, 江田島市大柿町＊ 江田島市能美町＊, 竹原市中央＊, 大崎上島町東野＊					

注) 震度の地名に＊印を付したものは、広島県または防災科学技術研究所の震度観測点によるものです。

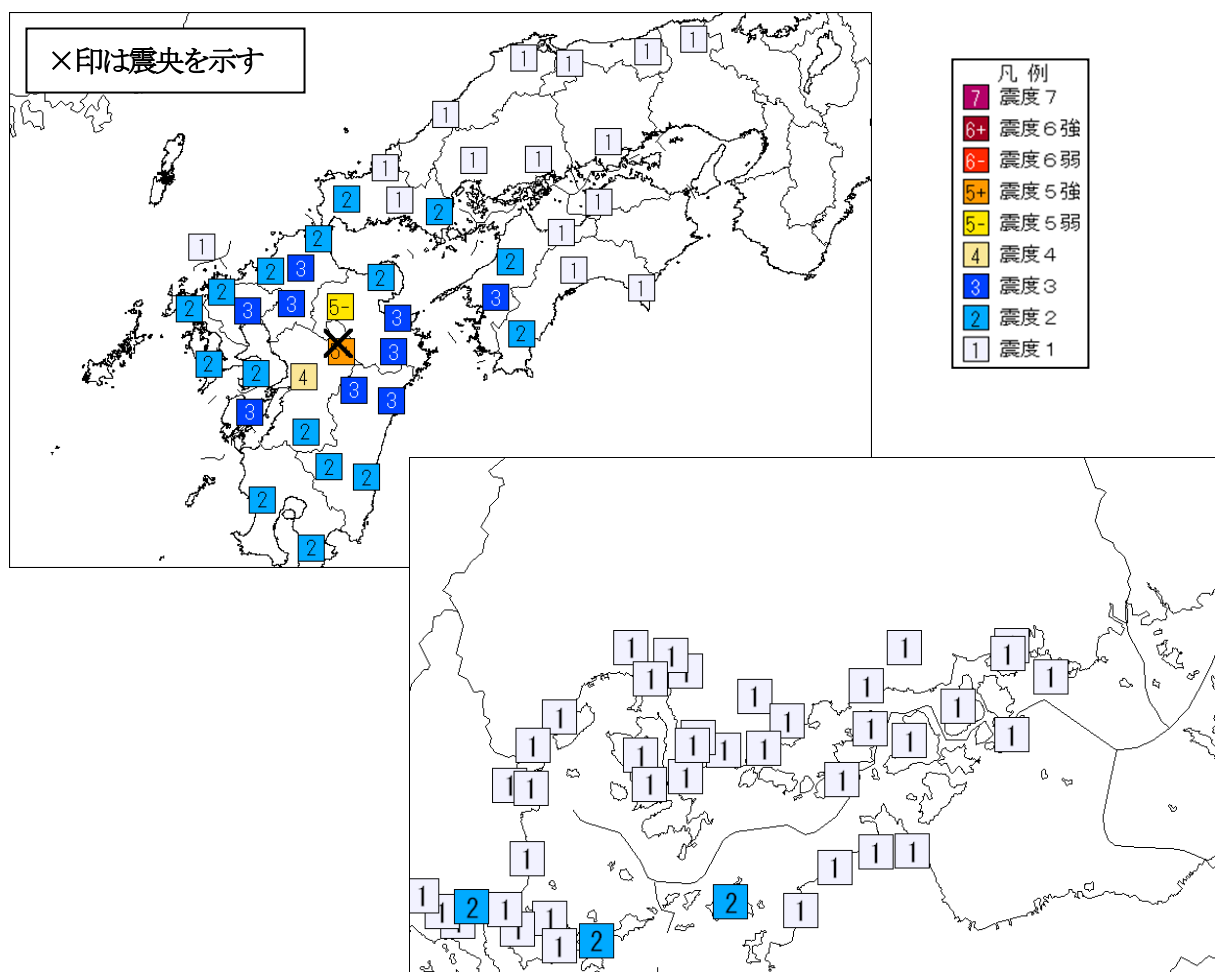
【震度分布図】



2025 年 11 月 11 日 06 時 17 分 広島県南西部の地震の観測点震度分布図



2025 年 11 月 20 日 10 時 35 分 島根県東部の地震の観測点震度分布図



2025 年 11 月 25 日 18 時 01 分 熊本県阿蘇地方の地震

(左上) 地域震度分布図、(右下) 広島県周辺の観測点震度分布図

南海トラフ地震は、駿河湾から日向灘沖にかけてのプレート境界を震源域として概ね 100～150 年間隔で繰り返し発生してきた大規模地震で、過去には、想定震源域のほぼ全域で同時に地震が発生したことがあるほか、東側半分の領域で大規模地震が発生し、時間差をもって残り西側半分の領域でも大規模地震が発生したこともあります（図 1）。

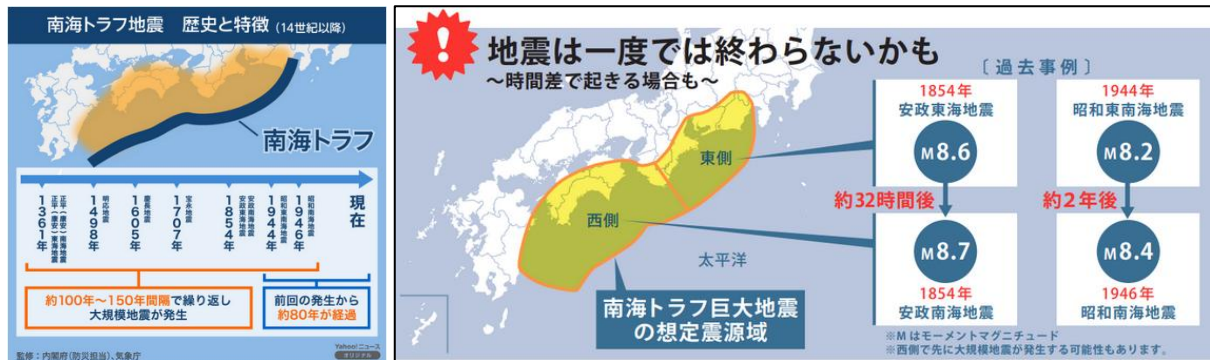


図 1 南海トラフ地震の歴史と特徴

（気象庁 HP※左図：Yahoo! ニュース制作図解・商用利用不可・図解を分割編集しての使用はできません）

来年は昭和南海地震（1946 年 12 月 21 日）の発生から 80 年となる節目の年です。また、昭和東南海地震（1944 年 12 月 7 日）と昭和南海地震はどちらも 12 月に発生しているということもあり、今月号（12 月発行）では、南海トラフ地震に対する備えの一つとして、南海トラフ地震臨時情報（以下、「臨時情報」という。）について解説します。

臨時情報は、南海トラフ沿いの想定震源域で一定規模以上の地震が発生した場合等に、続けて大規模地震が発生する可能性が平常時と比べて相対的に高まった場合に発表する情報です。臨時情報を発表する現象は図 2 の 3 ケースで、先発地震の発生場所や規模等によって（巨大地震警戒）や（巨大地震注意）等のキーワードを付して発表します（図 3）。

昨年 8 月 8 日 16 時 42 分、南海トラフ地震の想定震源域内で発生した日向灘の地震（深さ 31km、マグニチュード 7.1）により、気象庁は同日 19 時 15 分に令和元年 5 月 31 日の運用開始以降、初めて臨時情報（巨大地震注意）を発表しました。

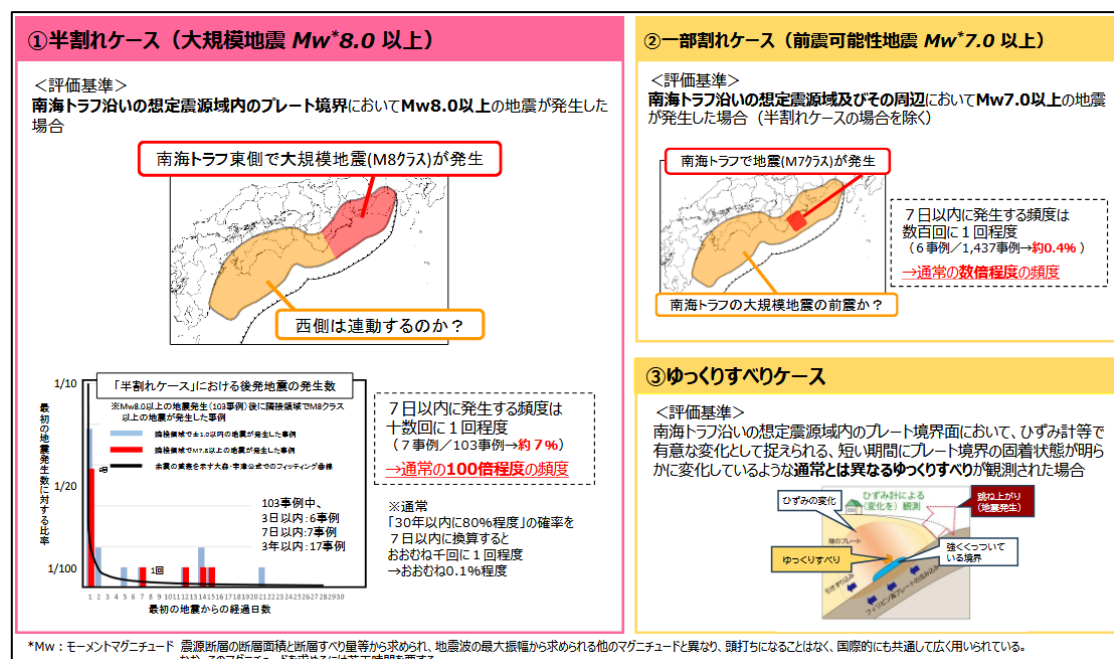


図 2 臨時情報が発表される現象（南海トラフ地震臨時情報防災対応ガイドライン概要版より）

南海トラフ地震 臨時情報	
キーワード	<p>調査中</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 南海トラフ沿いで観測された異常な現象と南海トラフ地震との関連性について調査を開始した場合、または調査を継続している場合 ■ 観測された異常な現象の調査結果を発表する場合
	<p>巨大地震警戒</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 南海トラフ沿いで観測された異常な現象と南海トラフ地震との関連性について調査を開始した場合、または調査を継続している場合
	<p>巨大地震注意</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 南海トラフ沿いの想定震源域内のプレート境界において Mw8.0 以上の地震が発生したと評価した場合 ■ 南海トラフ沿いの想定震源域内のプレート境界において Mw7.0 以上、Mw8.0 未満の地震が発生したと評価した場合 ■ 南海トラフ沿いの想定震源域内のプレート境界以外や想定震源域の海溝軸外側 50km 程度までの範囲で Mw7.0 以上の地震が発生したと評価した場合 ■ 南海トラフ沿いの想定震源域のプレート境界面でひずみ計等で有意な変化として捉えられる、短い期間にプレート境界の固着状態が明らかに変化しているような通常とは異なるゆっくりすべりが観測されたと評価した場合
	<p>調査終了</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 巨大地震警戒、巨大地震注意のいずれにも当てはまらない現象と評価した場合

図3 臨時情報の発表条件・キーワード（気象庁・内閣府作成リーフレット「南海トラフ地震-その時の備え-」より）
※Mw：モーメントマグニチュード 震源断層の面積とすべり量等から求められ、地震波の最大振幅から求められる他のマグニチュードと異なり、頭打ちになることはなく、国際的にも共通して広く用いられている。なお、このマグニチュードを求めるには若干時間を要する。

臨時情報発表時には、政府や自治体などから呼び掛けられる、臨時情報のキーワード（巨大地震警戒、巨大地震注意または調査終了）に応じた防災対応（図4）をとることが大切です。なお、既に発生した地震に伴う津波警報等が発表されている地域では、津波への防災行動を最優先とし、避難情報に留意するとともに警報が解除されるまで安全な場所にとどまり続けてください。

南海トラフ地震はもしかしたら明日にも起こるかもしれません。南海トラフ沿いで異常な現象が観測されず、南海トラフ地震発生の可能性の相対的な高まりについてお知らせする臨時情報の発表がないまま、突発的に南海トラフ地震が発生することもあります。そのため、「日頃からの地震への備え」（図5）を実施することが大切であり、大きな地震が起きた時はまずは自分の身を守る行動を取りましょう。



図4 「臨時情報」のキーワードに応じた防災対応の概要

（気象庁HP：※Yahoo!ニュース制作図解・商用利用不可・図解を分割編集しての使用はできません）



図5 日頃からの地震への備えの概要

参考：気象庁ホームページ

- ・ 知識・解説＞南海トラフ地震について

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/now/jishin/nteq/index.html>

- ・ 知識・解説＞「南海トラフ地震に関連する情報」について

https://www.jma.go.jp/jma/kishou/now/jishin/nteq/info_criterion.html

本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016 年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、2025年トカラ列島近海における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（平島、小宝島）、EarthScope Consortiumの観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

なお、本資料の震源要素及び震度データは暫定値であり、後日再調査のうえ、修正されることがあります。

広島県の地震に関する問い合わせ先

〒730 - 0012

広島市中区上八丁堀 6 - 30 広島合同庁舎 4 号館 14 階
広島地方気象台 防災管理官室 TEL : 082 - 223 - 3953